



あやめ



in 「一期一会」

文責：生徒指導主事 櫻本直弘

自らの舞台を、自らの手で

公立高校後期入試が行われた3月4日（水）、すでに公立高校前期入試で内定をもらっている生徒や私立高校の合格を手に行っている生徒が登校し、11日（水）に実施される「第70回卒業式」の会場準備を行いました。

自らの舞台は自らの手で整える…。素晴らしい姿勢だと思います。もちろん、最終的には在校生が前日準備を進める中で会場の最終調整をするわけですが、すべてを在校生任せにせず、できることは自分たちの手で進める…。とても大切なことだと思います。

3年生が3年生として、**最後にどんな姿勢を見せてくれるのか。後輩たちにどんな背中を見せてくれるのか。**残された日数は非常に少ないですが、この「数日」がとても大事だと思います。「**先輩としてのあるべき姿**」をしっかりと見せてください。

公立高校後期入試に挑んだ3年生の皆さん、お疲れさまでした。受験生としての苦しい日々、ここまで長い道のりだったと思います。合否の結果が出るのはまだ先ですが、「**やるべきことはやった**」と胸を張り、**自分の可能性を最後まで信じ、残された日々を過ごしてください。**

櫛形中学校3年生171名、全員で作る卒業式、しっかり前を見つめ、晴れやかに「**学び舎**」を巣立っていく皆さんの姿、楽しみにしています。



思いよ届け！3年生激励会！

卒業式の主役は3年生である。義務教育課程を修了し、自己の成長を感じながら新たな世界へと旅立っていく晴れ舞台である。そんな卒業式の中で在校生にできることは何なのか？実はそんなに多くのことができるわけではありません。全校生徒で『ハレルヤ』を合唱する場面こそあるものの、**「厳粛な卒業式の雰囲気を作り出し、先輩方の成長した姿をその目に焼き付けること」**これこそが在校生に与えられた大切な役割です。

しかし、在校生として、旅立つ先輩方に何かできないか。お世話になった先輩方の背中を押してあげることができないか。そして先輩方から**「櫛形中学校のバトン」**を受け継ぐ決意を示すことができないか。そんな思いの中で今回の「3年生激励会（3/6）」は行われました。

1・2年生それぞれの学年からの学年合唱、体育館全体に響き渡る応援と応援歌『紫高の誉れ』、1・2年生合同の『ハレルヤ』合唱、そのひとつひとつに「在校生の思い」がしっかりと感じられました。特に応援と応援歌は**在校生としての「揺るぎない覚悟」**が伝わる素晴らしいものとなりました。その行動で思いを伝え、その姿勢で思いを届ける…。まさに**「心揺さぶられる瞬間」**でした。

在校生の「思い」を受け取り、いよいよ3年生は卒業式へと向かっていきます。**「卒業式は最後の授業である」**とよく言われます。教室での授業をはじめとし、学校内外で身につけた様々な**「学び」の集大成を見せる場**です。どのような卒業式を作り上げるのか。私たちも3年生の最後の姿をしっかりと目に焼き付けたいと思います。

